

# 新採教員育成・支援事業

～小学校における新採教員を守りながら育てるために～

令和5年12月 山形県教育委員会

## 【背景】

- 活気にあふれた学校づくりを進めていくためには、若手教員がいきいきと働くことが重要。
- 近年、若手教員の早期退職が増加傾向。
- 教育諸課題が多様化・複雑化している中、新採教員が採用時から学級担任を担うことは、負担が大きいとの指摘あり（特に小学校）。

県教育委員会では、学校全体で若手教員をサポートしていく中で、特に小学校における大卒新採教員の採用年度の負担を軽減しながら育成していくため令和5年度に以下の事業を創設、実施。

## (1) 大卒新採教員を「教科担任(兼)学級副担任」とする

- 大卒新採教員が、特定の教科の授業を受け持ちながら、学級副担任として、学級経営や保護者対応等を学ぶ。
- 大卒新採教員を「教科担任(兼)学級副担任」とする学校には、国の専科加配を配当。
- 教科担任としての授業時数を確保するため、「教科担任(兼)学級副担任」の配置先は、一定規模以上（5年生又は6年生が3学級以上）の学校。

## (2) 担任となる大卒新採がいる学校には、新採教員支援員を配置する

- 上記(1)以外の学校に配置する大卒新採教員は、学級担任を受け持ち、その負担を軽減させるため、「新採教員支援員」を配置。
- 「支援員」には、再任用短時間職員又は非常勤職員等を配置。
- 「支援員」が教員免許を保有している場合、大卒新採教員の特定の授業を担い負担を軽減。
- 「支援員」が教員免許を保有していない場合、担任業務のサポートを行い負担を軽減。

## 令和5年度の対象者

令和5年度新採小学校教員 167名	
大卒新採教員 106名	他県経験・講師経験 61名

↓

教科担任(兼)副担任
24名

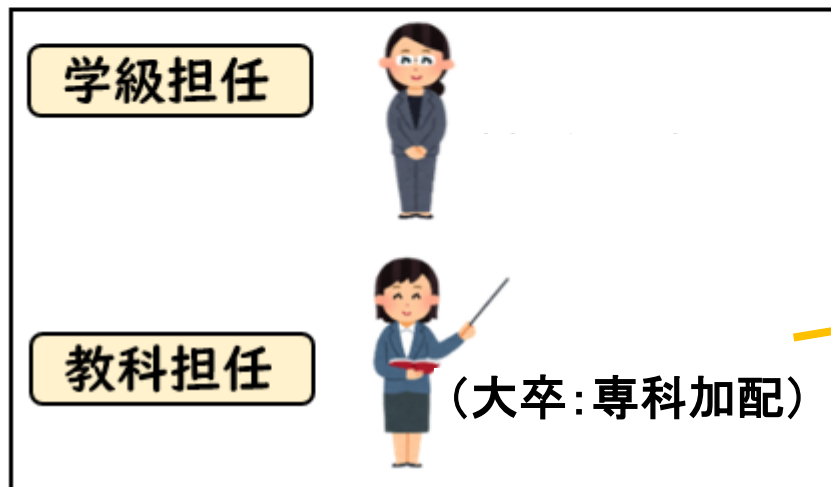
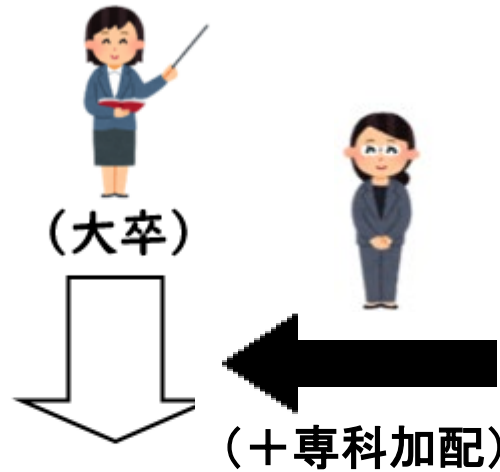
↓

学級担任
82名

※新採教員支援員を配置

# 教科担任(兼)学級副担任の配置①

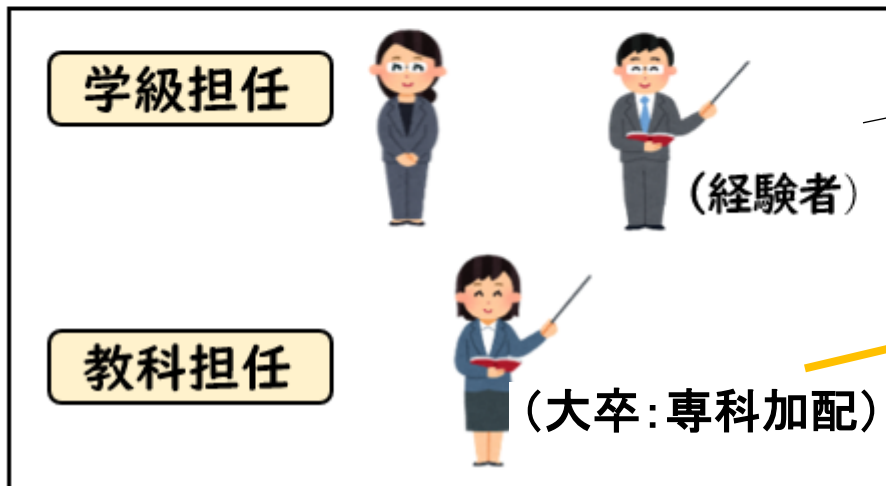
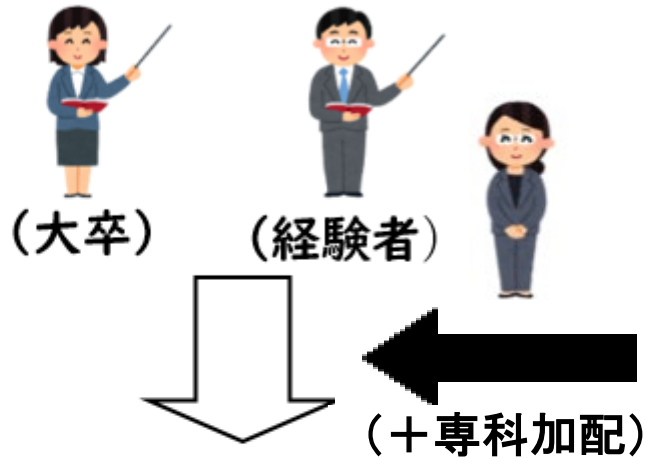
## 大卒新採 1名配置の場合



- ・教科担任として週17コマ程度授業を行う。

## 教科担任(兼)学級担任の配置②

大卒新採と講師等経験者の2名配置の場合

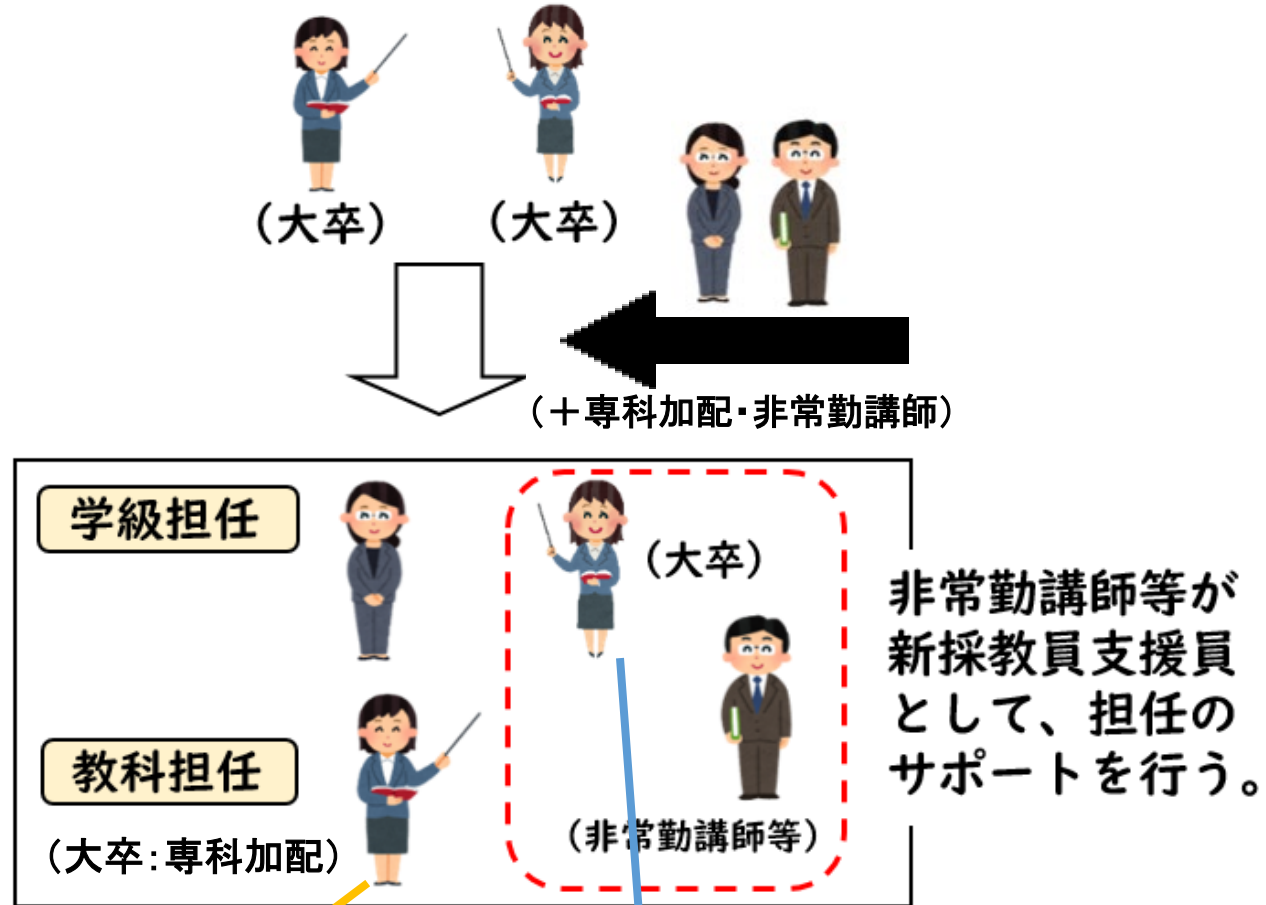


・経験者は学級担任をする。

・教科担任として週17コマ程度授業を行う。

# 教科担任(兼)学級担任の配置③

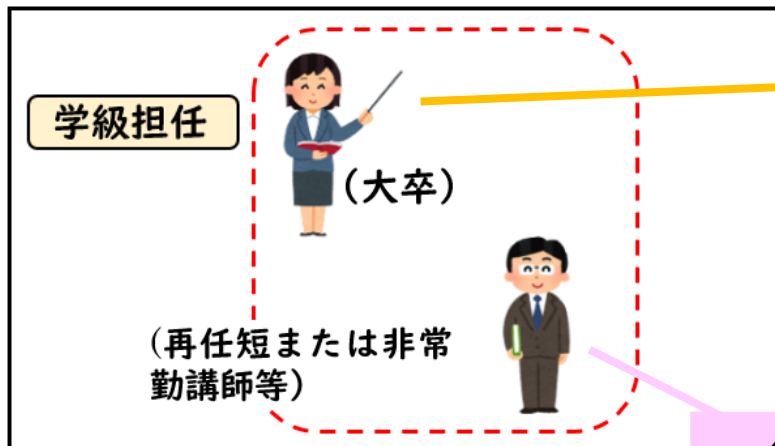
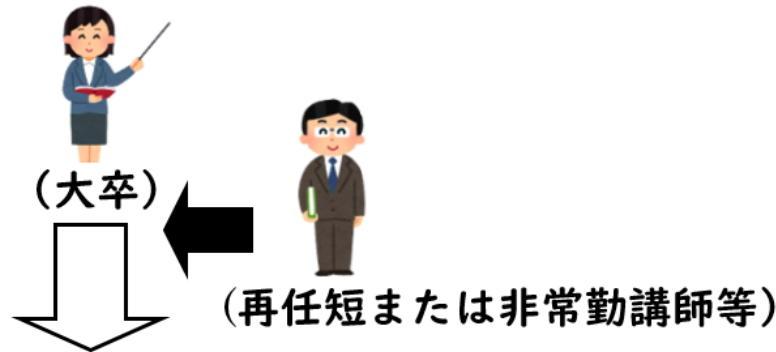
## 大卒新採2名配置の場合



・教科担任として週17コマ程度授業を行う。

・学級担任として新採教員支援員のサポートを受ける。

# 新採教員支援員（再任短または非常勤講師等）の配置



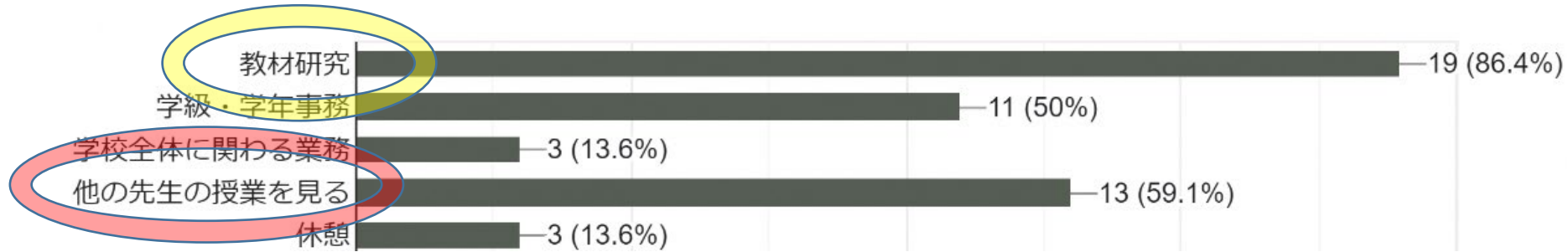
・担任として週14～17コマ程度（低学年は11～14コマ程度）授業を行う。

- ・免許を持つ場合、大卒新採教員の授業を週5～8コマ程度代替する。
- ・免許を持たない場合、大卒新採教員の学級事務の補助等を行う。

# ～アンケート調査より～ 空き時間の使い方

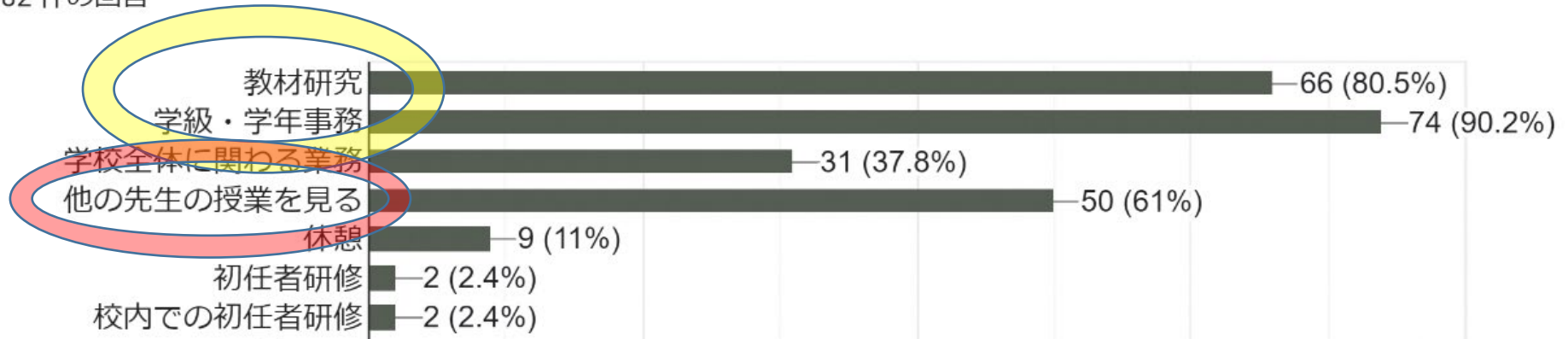
## 教科担任（兼）学級副担任

22件の回答



## 学級担任（支援員配置）

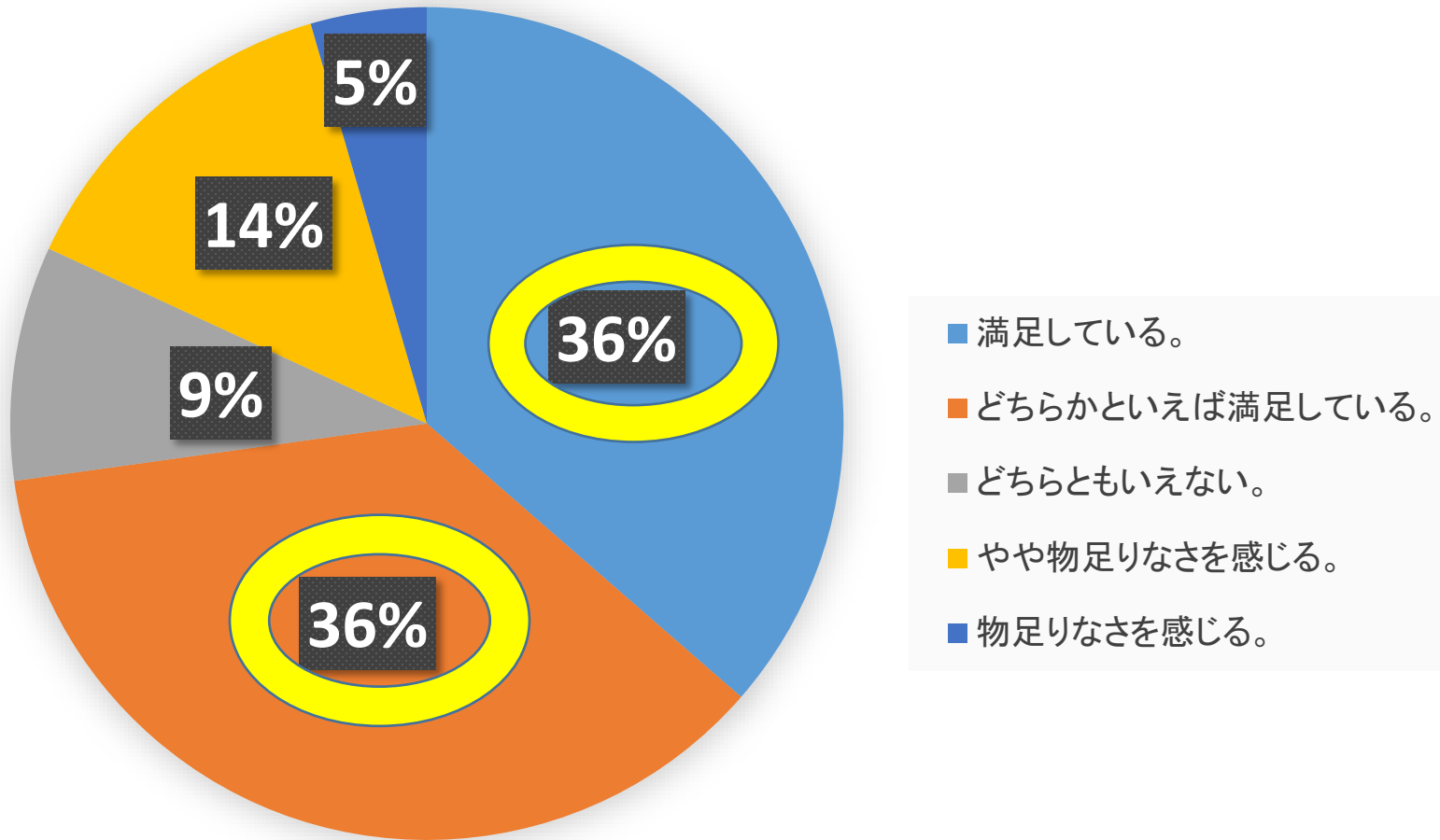
82件の回答





# 教科担任（兼）副担任のアンケート結果

あなたは、教科担任（兼）副担任として教員1年目を過ごしていることを、どのように感じていますか。



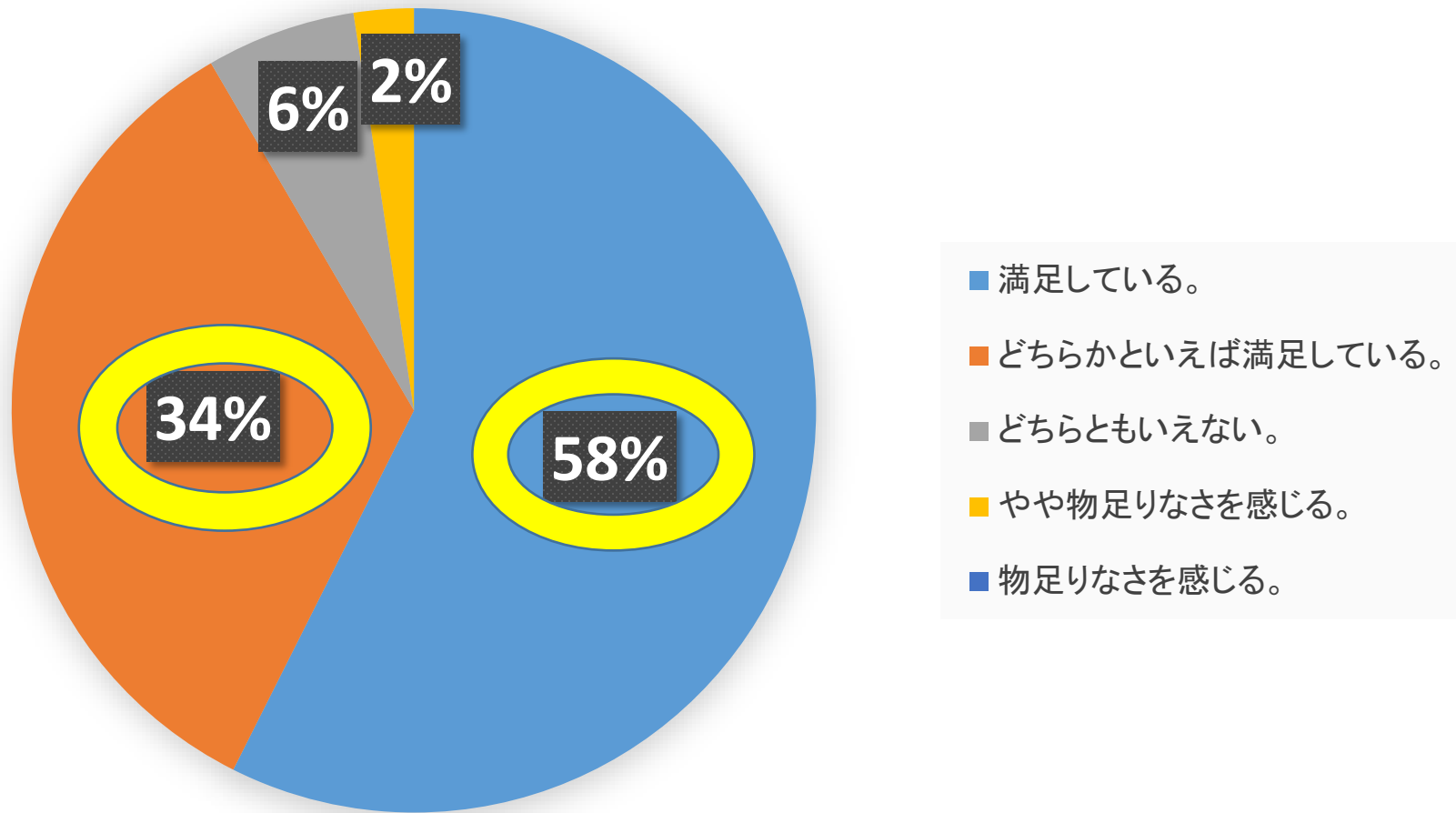
**+評価 72.8%**

## 教科担任（兼）副担任の声

- 空き時間があることで、時間と心のゆとりができている。
- 様々な学年や先生方の授業・学級経営・保護者対応を見ることができ、来年度からの学級経営に生かしたいことを学ぶことができている。
- 教科担任として、深い教材研究ができている。
- 学級担任をしたいと思っていたが、4月の学級担任の忙しさを見て、副担任でよかったと思った。
- ▲不安ではあるが、学級担任をしたかった。
- ▲来年度、学級担任をすることへの不安がある。

# 学級担任（支援員配置）のアンケート結果

新採教員支援員の支援を受けながら学級担任として教員1年目を過ごしていることを、どのように感じていますか。



**+評価 91.4%**

## 学級担任（支援員配置）の声

- 空き時間があることで、授業の準備や授業参観ができています。
- 新採支援員からアドバイスをもらいながら学級経営を進めることができています。
- 宿題の点検などの学級事務もしてくれるので助かっています。
- ▲来年度、新採支援員がいない中で学級経営ができるか、不安である。

## 現時点における県教育委員会の評価

- 大卒新採教員に空き時間ができたことで時間的なゆとりが生まれ、授業作りについて学ぶ時間が確保された。
- 大卒新採教員の精神疾患による特休取得者0名。
- 学校全体で、初任者を守りながら育てる意識が向上している。
- 本県の新採教員育成・支援事業を知り、今年度、他県から山形県の採用試験を受けた人がいた。

## 現時点における県教育委員会の評価

- 大卒新採教員への希望の確認の仕方。
- 2年目に向けての教員としての資質・能力の計画的な育成。
- 専科加配を大卒新採教員に充てることにより、
  - ・大卒新採教員がいない学校に専科加配を配当することができなかった。
  - ・学校が希望しているような専門性の高い教員による専科指導ができないケースがあった。